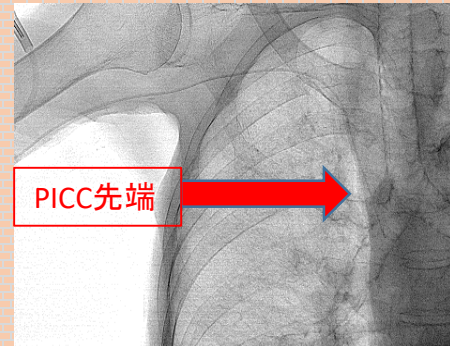


# 血管造影検査

当院には2台の血管造影装置があり、現在では主に、末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）の留置や心臓カテーテル検査・治療などを行っています。

## ○末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）

エコーで確認しながら、上腕にある静脈を穿刺して長いカテーテルを挿入し、腋窩静脈、鎖骨下静脈を通過して上大静脈にカテーテルの先端を持っていき留置します。挿入時に、気胸や血胸などの合併症が起こらないことが最大の利点で、定期的な入れ替えも必要なく、点滴や薬剤の注射の度に針を注射されることがなくなります。



## ○心臓カテーテル検査

心臓カテーテル検査とは、心筋に血液を供給している冠動脈という血管の入り口に、カテーテルと呼ばれる細長い管を挿入し、冠動脈内に造影剤というお薬を流してX線撮影をします。冠動脈に細い部分（狭窄）や詰まっている部分（閉塞）があるかを把握することができ、狭心症や心筋梗塞などの異常がないかを調べることができます。



### 《心臓カテーテル検査・治療の流れ》

1. 手首、肘、鼠径部のいずれかの穿刺部位に麻酔をします。
2. カテーテルを心臓栄養血管の冠動脈の入り口まで通します。
3. カテーテル先端から造影剤を流し、冠動脈の狭窄・塞栓を確認します。
4. 血管の狭窄部位まで、PTCAバルーンという風船を進めて膨らませ、血管の内側を広げていきます。（冠動脈治療）
5. バルーンだけでは広がりきれないところに、ステントという、ステンレスなどの金属でできた小さい網目模様の筒を挿入し、狭窄部位で拡張することで病変部を治療します。

①治療前

②ステント留置

③治療後

